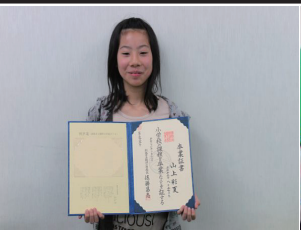




春期講座前の掃除の手伝い



卒業証書を持って山上さん



新中1の山岸君と谷口君



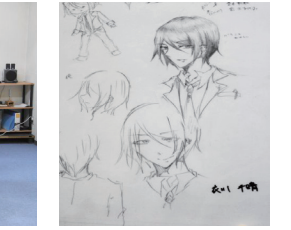
既に中三の勉強を始めている



双子の姉妹で切磋琢磨



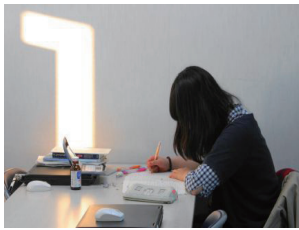
25年度の卒業生と記念写真



漫画家志望の衣川さんの絵



骨折が回復してきた佐々木君



チオピタ飲んで大学受験に向かう。こんな大きな単語カード



放射線技師の学校へ通う住川さん



就職が決まった道工大の小林君



2期生の三ツ石さんが久しぶりに塾に来てくれました。塾生、みんなの分のシュークリームを差し入れを持って。



パトンの全国大会に出場した田村さんのお土産です。



佐賀のお母さんの実家に行ってきた田中君のお土産です。

『入試も終わって、もうすぐ新年度!』
昨年同様、今年の入試も易しかった。新指導要領の実施で全国的にはかなり難しくなっている。しかし北海道の入試は予想通り2年連続で易しい問題だったので塾生の大半が入試の点数が過去最高点だった。

釧路学区では、募集定員に対する出願数はプラス98名で無風状態に近い。結果として北陽高校と明輝高校が定員割れになった。気になるのは推薦、湖陵高校の普通科を除く全ての学校が推薦で入学できるようになり真剣に受験勉強をしない生徒が増えていくことだ。実際、T中学校のあるクラスでは36人中26人が推薦だったり、推薦の提示に志望校を諦めた生徒も。しかし、その志望校は定員割れだった。諦めずに受験していれば入学できた。

これでは釧路の学力はいつまで経っても向上しない。塾生は合格が決まった後も「高校スタートダッシュ」のために3月末まで塾で勉強する。更に既に5人の生徒が高校入学後もそのまま塾に通うことを決めている。釧路の高校生は受験が終わると勉強しない(全国でも同じような傾向らしい)、高校入試はゴールではなくスタート。意識の差が学力の差に、学力の差は意識の差からできる。

学校ではもうすぐ新年度が始まる。勉強で大切なことはまず素直であること。そして目標を持つこと、こつこつやることの三つだ。簡単そうで難しい。

特に中三生、高三生は既に受験まで一年を切っている。志望校目指して時間を無駄にしないようにすることだ。時間は取り返すことができないからだ。言うまでもなく毎日の努力の積み重ねでしか結果

は生まれない。
来年の入試、高校の学級減も予想される。推薦の誘惑に負けないように4月のスタートから覚悟を決めて目標に向かうことが必要だ。

『卒業生・保護者の声から!』
お世話になったステップゼミナールではたくさんのお話を学んだような気がします。

私は「こうなりたい」と自分の中で目標を持ち続けることが、受験勉強に取り組む上でとても大切なことだったと思います。

私は中三の春から通い始めましたが、始めの頃は志望校のことは本当にほんやりしか考えていませんでした。その時の私は受験が近くなったら、その時の学力に合った高校を志望校にすればいいのかなと思っていました。

ですが塾に通い続けているうちに私は看護師になりたいと強く思うようになりました。そして、「北陽高校に行つて看護師になりたい」と明確な目標を持って受験勉強に取り組みました。こんな風に思うようになったのは自分の力ではなく、家族や先生方の支えがあったからだと思っています。本当に感謝しています。

土、日曜日の特講が多いことも宿題の量が多いことも、受験が終わったときに「今まで頑張ってきたよかった。投げ出さずに最後まで取り組んでよかった。」と心から思えました。

15歳の春に頑張つて努力したことは決して無駄なことではなく、これからたくさん辛いことを乗り越えていく上でとても大切な経験でした。

ステップゼミナールでのたくさんの経験は私の大きな財産です。

自分一人だけの力ではなく、周りの人たちに支えてもらいながら受験に向かえたことを本当にうれしく思います。ありがとうございます。次の目標は看護師になることです。絶対になって見せます。

(T中学校 Nさん)

いつの間にか雨の日も雪の日も当たり前のように通っていました。

正直、「塾をやめたい」と言い出さないので不思議に感じていました。それは勉強して少しずつ自信が付いてき事と塾長や先生が娘の夢について真剣に聞いてくれたり、アドバイスして下さった事が大きかったのだと思います。

二年数ヶ月の間、色々な面で親身になって頂き親子共々感謝しております。ありがとうございます。

(T中学校 Kさんのお母さん)

家庭の理解と協力、そして市内の生徒の中でも最も勉強量が多い塾生の努力の結果です。これが25年間受け継がれてきたものだと思います。

卒業生や保護者の方のメッセージを励みに、今後も塾生と保護者の期待にそえるようがんばります。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
	授業あり(5月2日に振替)		休塾							休塾							休塾					中学・高校入学式		休塾	休塾	春期講座最終日	■中三道コン■	■中一・中二道コン■	春期講座

携帯電話の持ち込み禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。

4月の予定

「一斉捜索」友情の赤い車列

大阪の全消防隊員、釜石・大槌消防新庁舎に絆描いた絵を寄贈

被災地で結んだ絆は色あせない。東日本大震災で被害を受けた岩手県の釜石市、大槌町地区の消防本部の新庁舎が今月下旬に完成するのを祝い、大阪府内の約9700人の全消防隊員が寄付を出し合い絵を寄贈する。府内の消防が震災直後に消防車両約百台と隊員約400人を擁する援助隊を派遣したことが縁で交流が続いており、その絆を象徴する写真が絵の



絵の題材となる写真。岩手県大槌町に向かう大阪府の援助隊の長い車列は固い絆を物語る（大阪市消防局提供）

題材に選ばれた。生存率が低下する「72時間の壁」が過ぎた後、大槌町の一斉捜索に向かう援助隊のどこまでも延びる赤い車列。その光景に地元消防の幹部は「今も目頭が熱くなる」と語り、絵は一番目立つ正面玄関に飾られることになった。（高久清史）

大阪の救援隊、1千キロを陸路ではるばると

平成23年3月11日。釜石大槌地区行政事務組合消防本部は本部庁舎と釜石消防署などが壊滅的な被害を受け、大槌消防署は水没。消防車両25台のうち17台が流され、隊員3人が命を落とした。海岸地区の消火栓はほとんど使えず、地中にある防火水槽の場所も分からなくなった。

生存者の捜索にあたるが、人手が足りない。大槌町ではプロパンガスが原因とみられる火災が発生し、山林にまで延焼した。絶望的ともいえる状況に陥っていた同13日、1千キロを超える陸路を走破した大阪府の援助隊が到着した。当時の様子を同消防本部の菊池忠男次長は振り返る。

「とても力強く、みんな助かったと思った。住民の方々は整列し、車列に向かい深々と頭を下げている」

援助隊は大槌町で生存者を捜索し、山林火災の消火にもあたった。震災から72時間が経過した14日夕には隊員380人も新たに加わり、約800人体制で一斉捜索を展開。この捜索に向かう車列を大阪市消防局の隊員が撮影していた。

仲間のためだから

大阪府の援助隊は同年4月中旬まで現地で活動。2人の生存者を救出し、がれきに埋まっていた防火水槽の掘り起こしなど消防態勢の再構築も支援した。津波で失われた防火服やホース、担架などに加えて消防車両12台を寄付した。

援助隊の記録誌に掲載された釜石消防署隊員の寄稿によると、当時の隊員には「支援されるばかりで自分たちが何もできない」と気後れがあった。だが大阪市消防局の1人から「気にするな。仲間のためだから、ここまで来た」と言葉をかけられ、「涙を堪えるのに必死だった」という。

大阪側も現地の隊員たちの姿に心を打たれていた。「家族が行方不明になるなど過酷な状況なのに休まず働いていた。同じ消防士として任務を代わり、体を休めてもらいたかった」（大阪市消防局幹部）

菊池次長は同6月、妻と一緒に同市消防局を訪れた。感謝の気持ちを伝えるためだったが、逆に食事をごちそうになり、吉本新喜劇にも連れて行ってもらった。「大阪の人たちは熱くて、温かい」。菊池次長はしみじみと語る。

われわれは見捨てない

釜石市教育センター内に事務所を構える同消防本部は今年30日に新庁舎の落成式を迎えることになり、招待された大阪側が式典での絵の寄贈を申し出た。

双方の話し合いで絵の題材は車列の写真になり、府内の全隊員約9700人の寄付で計100万円を工面。絵は横167センチ、縦103センチと大きく、通常ではもっと高額だが、画家が寄贈の趣旨に賛同して特別に引き受けてくれたという。

市消防局幹部は絵に絆の思いを込める。「家族や同僚を亡くし、家を失いながらも頑張る仲間をわれわれは見捨てない。ずっと応援するというメッセージだ」

MS産経ニュースWEST 3.17より

スマホ：所持は96%、75%が依存 山形・高1対象調査

山形県内の公立高校1年生を対象に県が実施したスマートフォンに関する調査で、約75%がスマホ依存であることが分かった。県教育委員会高校教育課は「適切な利用への意識作りを急ぎたい」と話している。【前田洋平】

調査は今年1月に実施。県内の公立高校1年生全員が対象で、7306人から回答を得た。スマホ所持率は96.7%で、携帯電話と合わせて99.1%に上る。

スマホ、携帯とも所持率は0.9%にとどまった。総務省の調査による全国の高校1年生のスマホ所持率8.4%を山形は上回った。

依存度の調査では、「スマホや携帯が原因で勉強の能率や成果に悪影響が出る」や「友達と過ごすよりもスマホや携帯を使用したいと思う」など20項目に点数で回答してもらったところ、約75%が依存していた。

自由記述欄では、学習時間・睡眠時間が減った▽視力が落ちた▽インターネットを通じた人間関係にトラブルが生じたーなどの内容が書かれていた。

スマホ依存の弊害を防ごうと、ある県立高校では、約3年前から登校時にスマホや携帯を預かり、放課後に返却する試みをしている。生徒も「授業に集中したい」と同意して実施しているというが、県内全域への広がりを見せていない。

また、スマホ所持率が全国に比べ高いことについて同課は、家族間での連絡の必要性を挙げる。県内の中学校では携帯電話の所持を禁止するなどの措置が取られていることも多いが、電車や親の送迎で通学する高校生にとって、携帯電話は必需品となっているため、高校での禁止はほとんどないという。

同課は「生徒の事情を考えると携帯電話の所持を禁止することはできない」とする。両親の送り迎えが必要な生徒の場合、昼休みなどにあらかじめ親と連絡を取っておいて予定を確認する必要もある。

今後、県内の公立校では保護者も含めてスマホ利用に関する講演会を開き、スマホの適切な利用への意識作りを行っていく。 毎日新聞 03.06より

夜9時から家でもスマホ禁止に 愛知・刈谷の全小中学校

愛知県刈谷市にある全21校の小中学校が保護者と連携し、児童生徒に午後9時以降、スマートフォンや携帯電話を使わせない試みを4月から始める。無料通信アプリLINE（ライン）などを使ったトラブルやいじめ、生活習慣の乱れを回避するための措置という。

文部科学省は小中学校への持ち込みを原則禁止するよう各都道府県教育委員会に通知。各家庭で事情に応じたルールを決めるよう内閣府などと冊子で呼びかけているが、文科省の担当者は「地域で一律に使用時間の制限まで設ける試みは珍しい」としている。

刈谷市教委や市内小中高校、警察などでつくる「市児童生徒愛護会」が発案。（1）必要のないスマホや携帯電話を持たせない（2）契約時には親子で使用に関する約束を決め、有害サイトの閲覧を制限する「フィルタリング」のサービスを受ける（3）午後9時以降は親が預かるーの3点を学校とPTAの連名で家庭に要請する。

愛護会は「勉強や就寝の時間を考慮しつつ、厳しすぎないように午後9時に設定した」と説明している。 MS産経ニュース 3.17より

子供の学力

昨年4月の全国学力テストを基に、親の学歴や年収と子どもの学力の関係についての調査結果を文部科学省が28日発表し、収入が増えるにつれ正答率も高まるという傾向を指摘している▼塾代など学校以外の教育費の支出の差が学力の差となって表れているという。この因果関係が銅根にも当てはまるのか首をかしげ美くなるが、教育熱心で競争の激しい東京など大都市の影響が色濃く反映されているのではないかと。ある転勤族の単身赴任者が「子どもが小学校高学年になったら転勤で地方には連れて行けないよ」と言っていたのを思い出す▼2009年度の文部科学省白書が教育の家計負担などについてまとめている。これによると大学卒業までに家庭が負担する平均的な教育費は公立の幼稚園から高校そして国立大学に進学した場合が約1000万円、全て私立の場合で約3000万円に上ると計算している。▼例えば子ども2人が私立大学に通っている場合は勤労世帯の平均可処分所得の2分の1超を教育費が占める。教育費にしても負担能力の差がある。これが少子化を推し進めてきた大きな背景ともなっている▼しかし、テストの正答率を指す学力がいくら高くても社会への適応能力は大丈夫なのだろうか。学力は人間関係の問題を解決してくれるのだろうか。

郷 裕策 3.30 釧路新聞 余塵より

教育は「教」と「育」の両方で成り立っている。まず大事なのは「育」の方だ。時間を守る、きちんと挨拶ができる、決められたことを守るなど自己管理能力と責任感があれば「教」の部分の心配は要らない。今の学力の低さは、ゆとり教育と、建て前論そして過保護な状態で育ってきた結果だ。「教育」を考えるなら「育」の部分から始める事が重要だ。現実の社会は不平等で理不尽なことが多い。それに対応する力が「生きる力」だ。塾生にはそれを身につけてほしい。当然、学力も！